

ALL JAPAN STUDENTS' ASSEMBLY 2017

乙 11th table 総評

JUDGE : 新谷 (青学 4) 林 (上智 4)

1 テーブルメンバー

2 議論の流れ

3 順位及び選定理由

1 テーブルメンバー

乾 (立教 2) ・ 津田 (フェリス 2) ・ 坂野 (早稲田 2) ・ 増田 (東大 2) ・ 市本 (明治 2) ・ 早野 (明治 3)

2 議論の流れ

文責 : 新谷

2.1 初めに

まず私から議論の流れを簡単に書き記したいと思います。ただ、あくまでテーブルの外から議論を見ていた身なのでテーブルメンバーの皆さんと認識の違いがあるかもしれません。また、言語力に長けていないためわかりにくい部分もあると思いますが、ご容赦願います。

2.2 議論の流れ

Narrowing、OP 決めは特筆すべきことなく、乾が OP となった。

【ASQ】

津田、松本を中心に、議論するに必要な定義の確認や、各々の idea を話すために必要な情報を引き出していた。1 つ議論が生まれかけたところがあるので簡単に説明する。

Harm で m/s の RSN of will を、want to live から want to live as long as possible に変更しないかという S を津田が提示した。この S は、乾の患者の定義に patient が求める organ は natural organ のみ、また、natural organ と artificial organ の違いは possibility of recover の程度によるというものがあつたために出された S である。乾の C と S により、もしも津田の S に乗らなければ m/s の existence に doubt をもつことが明らかになり、SOH の obj として再度話し合うこととなった。

【NFC】

① 松本の obj

はじめに、松本から、現段階で medical technology が発展しているので、should not touch という idea が出た。Idea を理解する前に、各々の assumption によって Q や C をするため、はじめは議論がなかなか進まなかったが、松本の idea は、結局 medical technology が発展すれば、今回の plan を取る意味がなくなり、時間の無駄になるというものだった。結局、そうであっても m/s/b の possibility があるため should touch であるという乾の S によって収束した。

② 増田の obj

次に、松本の idea と少し似ている idea が増田から出された。彼の idea は今、medical company のサポートにより o/t の数は年々増加しているため、このまま SQ を続けられれば m/s は救われるというものだった。様々な方面からの S や C によって混乱しかけたが、乾の S により、NFC で話すのが最短で最善の方法であるという認識となった。その後増田の obj は plan を取らずとも将来 m/s は解決されるので、SQ がベストである、という idea であることが判明したが、それでも今の時点で苦しんでいる人がいる限り should touch であるという乾の idea によって収束した。

【PLAN】

SOL に入る前に、津田から comparison のやり方に対する S が出された。始まりは、津田の m/s/b は誰のためのものなのか、という話だった。それに対する乾の答えは、all J/N というもので、ここに津田は m/s/b for ADTG を確認しないままで本当に t/p しても良いのか、という疑問を投げかけた。そこで、はじめに ADTG に対する plan のメリットとデメリットを compare してから、普通の comparison をするべきであるという S が出された。この S は comparison の話であったため、後で話そうという乾の S によって収束した。

【1st workability】

坂野から obj が出された。Dr の数が足りない、organ の数が多くなったら Dr のキャパシティが足りなくなり、o/t の数は上昇しない、とう idea である。主に乾がいくつかの C をした後、乾から obj が出された。乾の obj は、Dr は患者に優先順位をつけることができるため、キャパシティが足りなくなることはないというものであった。また、この obj の根拠にトリアージが使われていた。このトリアージがあまりテーブルに浸透しなかったように見受けられ、乾の idea を理解しようとしていたところでディスカッションは終了した。

3 順位及び選定理由

文責：林

3.1 初めに

ここからは各参加者の順位及び選定理由について書かれています。

但し、ジャッジが議論の記録を取り評価を行っている為、下記内容が参加者との認識に合致しない場合があります。その為ジャッジ一同出来る限り客観的に評価する事に努めていますが、上記の理由よりあくまで下記内容が参考の域を出るものではない事をここに記しておきます。

3.2 順位及び選定理由

1 位：乾さん（立教 2）

オピニオンプレゼンターとしての議論を推進した事を評価し 1 位とさせて頂きました。具体的には、丁寧な Confirmation(以下 C)、議論を進める suggestion(以下 S)が挙げられます。特に議論を進める話の取舍選択 S に関しては彼女がほとんど出しており、彼女なしに議論が進んだとは言い難いと言えます。来年度も更なる活躍を期待しております。
乙ーランクおめでとうございます！

2 位：津田さん（フェリス 2）

議論へのコンスタントな介入を評価し 2 位としました。基本的なスキルは十分であると思われませんが、1 位の乾さんと役割が被り話の主導権を取れない場面が多く、1 位の乾さんとの発言数差以上の点数差もこの部分の表れだと考えられます。逆に ASQ での積極的な介入は評価されている為、その部分はより伸ばせると思います。今後は議論への柔軟な対応が出来るプレイヤーを目指すと良いと思います。お疲れ様でした。

3 位：坂野さん（早稲田 2）

アイデアの提示、そのアイデアに基づく議論を自ら展開した事を評価し 3 位としました。2 位の津田さんとは非常に僅差であり、介入が限定的でなければ 2 位の可能性も十分にありました。今後は自分のアイデアだけではなく他者のアイデアへの言及が増やし、より良い議論を作るプレイヤーを目指すと良いと思います。お疲れ様でした。

4 位：松本さん（東大 2）

アイデアを提示した事を評価しこの順位としました。3 位の坂野さんとの差はアイデアを他者か自ら展開したかの違いです。その為今後はまず自分でアイデアを展開出来るように努めてください。但しアイデアの質はこのテーブルで 1 番良かった事は紛れもない事実ですので来年度は是非よりレベルの高い議論を展開する事を期待しています。お疲れ様でした。

5 位：増田さん（成蹊 2）

アイデアを提示した事を評価しこの順位としました。4 位の松本さんとは介入量で差がつかしました。他者のアイデアを理解し議論を深める事を今後の議論への積極的な介入で知ると良いと思います。お疲れ様でした。

6 位：市本さん（明治 2） 早野さん（明治 2）

介入が見られなかった為、この順位としました。来年度に向けて何か目標を持つ事を期待しています。

3.3 終わりに

今回は 2 年カウンターテーブルという性質もあってか 2 位から 4 位までが非常に僅差であ

った為、順位の差はあまりなかったというのが正直な所です。皆さんのポテンシャルはそれぞれ高いと筆者は議論を通じて感じた為、是非この経験を生かして来年は甲テーブルでの活躍を期待しています。改めてお疲れ様でした。